

フィールド自治体型政策研究会 Topics No.1

第1回政策研究会〈令和元年5月23日 桑折町〉

令和元年度のフィールド自治体型政策研究会がキックオフしました！

研究対象である桑折町にて今年度の政策研究会の活動が始まりました。

令和元年度は、桑折町を研究フィールドに「町のイメージアップと交流人口、関係人口の創出・拡大」及び「行政情報の時期を的確にとらえた情報発信と広聴機会の充実」という課題をシティプロモーションの切り口から取り組んでいきます。

この活動に参加する研究員は、県の職員が5名、市町村（田村市、伊達市、桑折町）の職員が6名の総勢11名です。

桑折町は、県都福島市に隣接する人口約1万2千人の町で、四季折々の味わいを醸し出す自然や歴史・文化が薫る街並みなど、とても素晴らしい町です。「献上桃の郷」展開プロジェクトとして町のイメージアップを積極的に図り、「住み続けたい町 住みたい町 桑折」の実現を目指しています。

そこで、政策研究会では、桑折町の魅力を内外に効果的に発信し、人々の気持ちや行動を変えることによる交流等の創出・拡大に向けた政策提言を、10月末を目標に活動します。

第1回目となるこの日は、桑折町の現状と課題を知ることと、課題解決の切り口として「シティプロモーション」について学ぶことを目的に研究員以外の桑折町職員も参加してのミニ講演会を開催しました。

最初に たかはしのぶひろ 高橋宣博 町長から直々に桑折町の現状と課題についてお話しをいただき、さらに、研究会への期待と励ましをいただきました。



桑折町の魅力を熱く語る高橋町長



基調講演中の河井孝仁教授

次に基調講演として、シティプロモーションの第一人者である東海大学文化社会学部広報メディア学科の河井孝仁教授から『共創参画プロモーション～「シティプロモーション」を超えて』と題して、シティプロモーションとは何だろうか、なぜプロモーションするのか、何をプロモーションするのか、どうプロモーションするのか、についてお話していただきました。

ご講演では、『シティプロモーションとは、どのような人がこの地域（まち）で幸せになれるのかを考えることである。30歳代の子育て世代みなが同じ地域（まち）で幸せになれるわけではない。私たちの地域（まち）は誰を幸せにできるのかを、地域（まち）の魅力や可能性から考える。そのうえで、その地域（まち）に住めば、その地域（まち）を訪れれば「じっくりくる」だろう人を対象に、地域（まち）を知ってもらい、いかに「じっくりくるのか」について関心を持ち、詳しい状況を、共感を持って理解してもらう。そのための取り組みがシティプロモーションである。』とのお話がありました。

桑折町の魅力(魅力の創造を含め)を内外に効果的に発信していくための戦略を模索している桑折町にとって、とても大切な考え方になりそうです。



今後も不定期ではありますが、活動の様子を紹介してまいりますので、どうぞご期待ください。